

4. 事例の紹介

以下では、8つの事例を通して業態連携のポイントをご紹介します。

事例
1

歩行補助つえ＋手すり＋バスボード

事例
2

特殊寝台＋手すり＋入浴補助用具

事例
3

電動車いす＋スロープ・手すり

事例
4

歩行補助つえ＋手すり

事例
5

特殊寝台＋手すり＋ポータブルトイレ

事例
6

車いす＋扉変更・段差解消＋浴室用車いす

事例
7

歩行器＋手すり・スロープ＋浴槽台

事例
8

手すり＋敷居の撤去＋ポータブルトイレ

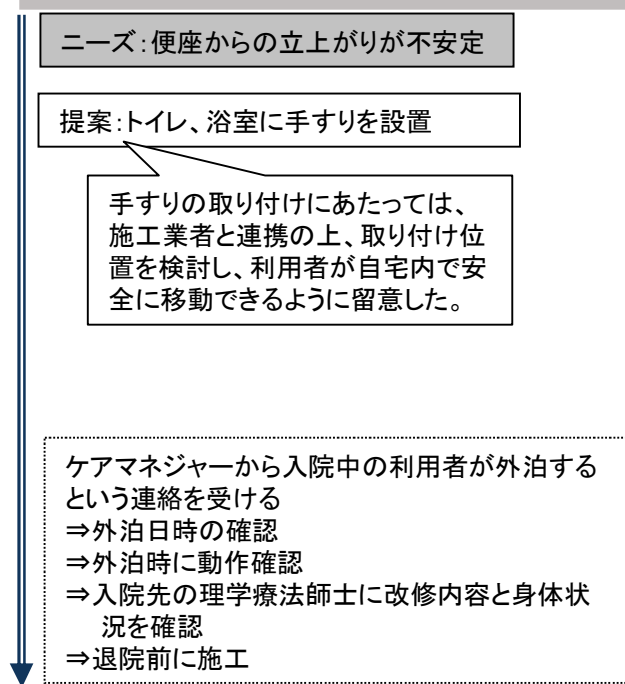
業態連携 事例

ケース1:Aさんの場合

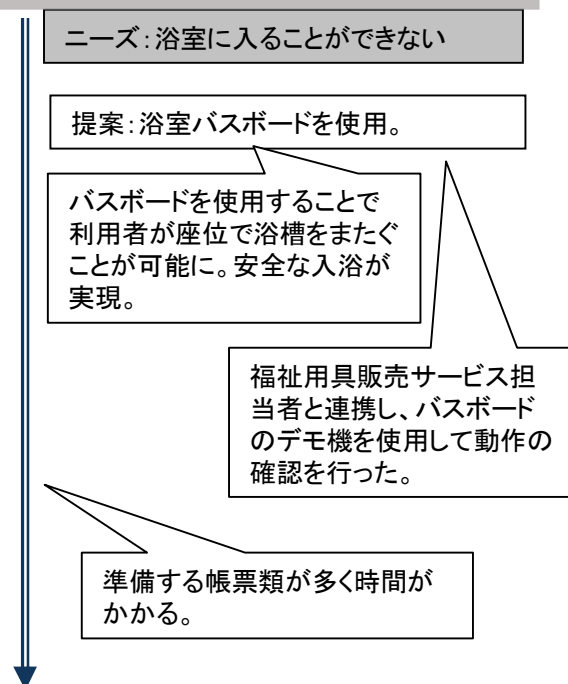
Aさんのプロフィール (利用)開始時期)		60歳 女性 認知症の状態 : なし	現疾患 : 脳梗塞(左片麻痺) 主な介護者 : 配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具 : 歩行補助つえ 利用開始時期 : 2009年2月	
	住宅改修	内容 : 浴室とトイレの手すり工事 時期 : 2009年2月	
	販売した福祉用具	用具 : バスボード 時期 : 2009年2月	

連携のプロセス

歩行補助つえレンタル開始 (2009年2月)



浴室とトイレの手すり工事(2009年2月)



バスボードの購入(2009年2月)

【連携の効果】

◆利用者・家族:

福祉用具の選定と合わせて施工業者も交えて手すりの位置を決めることができる。これにより、福祉用具の適合、住宅改修の内容を同時にかつ効果的に検討することができた。

◆事業所:

福祉用具貸与、販売、住宅改修まで担当者が1人で行うことで、日程調整が容易であり、福祉用具と改修の選定を1回で行うことができる。

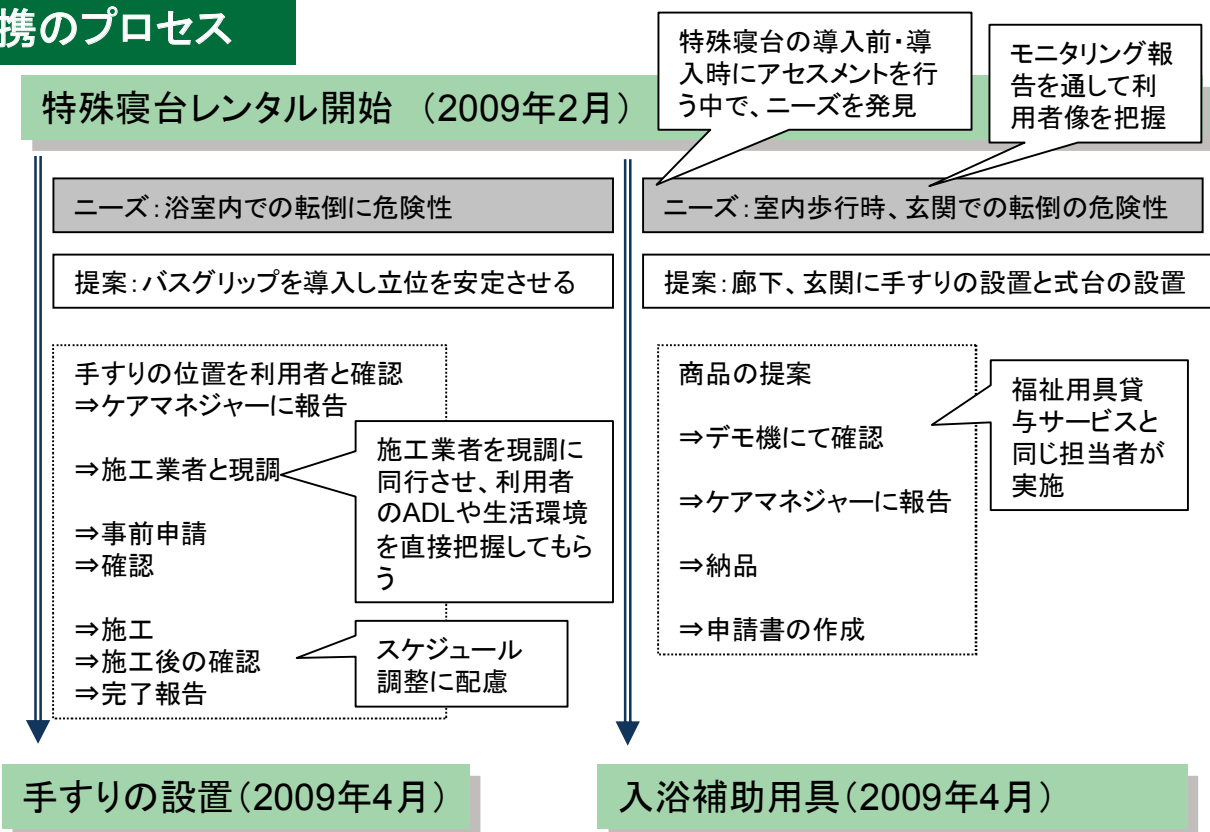
ポイント

業態連携 事例

ケース2: Bさんの場合

Bさんのプロフィール (利用)開始時期)		72歳 女性 現疾患 : 右不全麻痺 認知症の状態 : 軽度(多少の症状は見られるがほぼ自立) 主な介護者 : 配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具 : 特殊寝台 利用開始時期 : 2009年2月
	住宅改修	内容 : 手すりの設置 時期 : 2009年4月
	販売した福祉用具	用具 : 入浴補助用具 時期 : 2009年4月

連携のプロセス



【連携の効果】

◆利用者・家族:

住宅改修を行うことで、貸与されている特殊寝台のみでは対応できない部分(室内歩行、入浴)も含めて、生活全体を安全、快適にすることができる。

◆事業所:

軽度の利用者は住宅改修や福祉用具販売のみの利用を行う場合があるが、利用者のADLが変化する際に福祉用具貸与のニーズが発生する場合がある。

ポイント

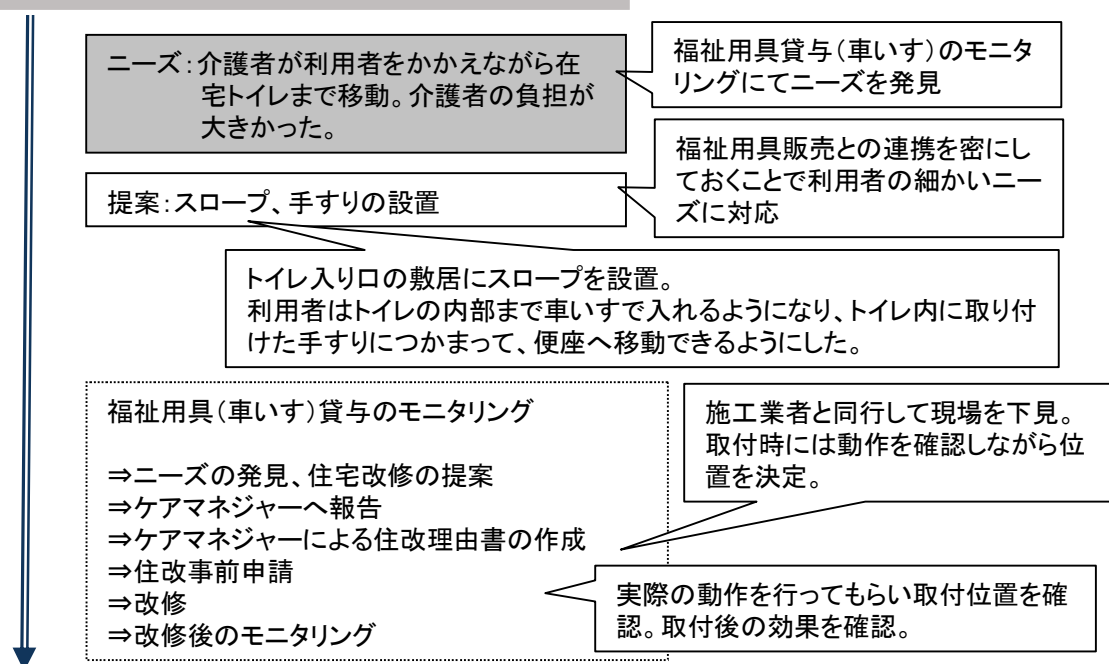
業態連携 事例

ケース3:Cさんの場合

Cさんのプロフィール (利用)開始時期)		80歳 女性 現疾患：パーキンソン 認知症の状態：軽度(多少の症状は見られるがほぼ自立) 主な介護者：子およびその配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具：電動車いす 利用開始時期：2009年7月
	住宅改修	内容：トイレ入り口にスロープ、トイレ内に手すり設置 時期：2009年8月
	販売した福祉用具	用具： 時期：

連携のプロセス

電動車いすレンタル開始（2009年7月）



トイレ入り口にスロープ、トイレ内に手すり設置(2009年8月)

【連携の効果】

◆利用者・家族:

住宅改修を行うことで、トイレまでの移動、移乗の介護負担が軽減。従来より貸与していた車いすをより効果的に利用できるようになった。

◆事業所:

福祉用具貸与の定期訪問で利用者、介護者の新たなニーズを発見し、定期訪問の必要性を伝えることができた。また、ケアマネジャーに対しても提供するサービスの専門性をアピールすることができた。

ポイント

業態連携 事例

ケース4:Dさんの場合

Dさんのプロフィール (利用)開始時期)		74歳 男性 現疾患 : 脳梗塞・外反母趾 認知症の状態 : 軽度(多少の症状は見られるがほぼ自立) 主な介護者 : 子およびその配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具 : 歩行補助杖 利用開始時期 : 2008年12月
	住宅改修	内容 : 廊下への手すり取り付け 時期 : 2009年7月
	販売した福祉用具	用具 : 時期 :

連携のプロセス

歩行補助つえレンタル開始 (2008年12月)

ニーズ: 利用者は歩行補助つえを利用していたが時々部屋に忘れてしまうことがあった。

提案: 居室と居間が離れており、転倒のリスクがあった。確実に体を支えることができる手すりの取り付けを提案。

ケアマネジャーに定期訪問の報告を行う際、住宅改修の必要性を説明。
⇒ケアマネジャーから利用者家族に説明と承諾を得る
⇒図面、見積をケアマネジャーに確認してもらい、理由書を作成してもらう
⇒施工
⇒工事後同行し、改修場所の確認をしてもらう

当事業所では定期訪問(アフターサービス)の内容を記録しており、前回訪問時との生活面の変化に気付いた。

取り付け位置を、利用者、家族とともにケアマネジャーと確認。施工業者とも現場を確認。

廊下への手すり取り付け(2009年7月)

ポイント

【連携の効果】

◆利用者・家族:

利用者は当初常に介助、身守りが必要であったが、手すりの取り付けにより自立歩行が可能になり、家族の負担が軽減された。

◆事業所:

定期訪問の有益性が実証でき、ケアマネジャーとの信頼関係が構築できた。

業態連携 事例

ケース5:Eさんの場合

Eさんのプロフィール (利用)開始時期)		67歳 女性 認知症の状態 : なし	現疾患 : 圧迫骨折、関節リウマチ 主な介護者 : 配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具 : 特殊寝台 利用開始時期 : 2009年4月	
	住宅改修	内容 : トイレの手すり取付工事 時期 : 2009年7月	
	販売した福祉用具	用具 : 洗浄機能付き補高便座 時期 : 2009年7月	

連携のプロセス

特殊寝台レンタル開始 (2009年4月)

レンタルの依頼があった特殊寝台のみでなく、利用者の状態像、ニーズを踏まえたアセスメントをする。

ニーズ: 便座から立ち上がる際、つかまる場所がなく、立ち上がりが困難

提案: 便座側方の壁に手すりを設置、身体への痛みを少なくして動作を行う

利用者に取付費を含めた工事費用を説明

⇒利用者との契約
⇒行政機関への事前申請
⇒施工

進行状況を確認

利用者、施行業者を交え、手すりの形状、取付位置の確認を行う。

ニーズ: 便器の高さが低く、立ち座りが困難

提案: リウマチによる股関節の痛みを少しでも軽減できるよう、洗浄機能付き補高便座を提案

・利用者との相談内容を、ケアマネジャーに随時報告。
・介護保険対象分と対象外工事についてしっかり説明する。
・見積書等、必要書類を渡す。

利用者がどの部分で困り、福祉用具の使用、工事を行うことで、どのような変化があるのかを説明。

トイレの手すり取付工事(2009年7月)

洗浄機能付き補高便座(2009年7月)

【連携の効果】

◆利用者・家族:

利用者、ケアマネジャー、貸与事業所の三者がしっかり連携し、共通認識を持つことで、利用者のニーズを把握した上で、利用者にとって良いサービスを提供することができた。

◆事業所:

レンタルの依頼があった福祉用具のみでなく、利用者の状態像、ニーズを踏まえたアセスメントに留意したことで、利用者が1人で気兼ねなく自宅で排泄できるような提案を行うことができた。

ポイント

業態連携 事例

ケース6:Fさんの場合

Fさんのプロフィール (利用)開始時期)		64歳 女性 認知症の状態 : なし	現疾患 : ALS 主な介護者 : 配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具 : 車いす(電動車いす以外) 利用開始時期 : 2009年7月	
	住宅改修	内容 : トイレ、浴室の扉の変更 段差解消 時期 : 2009年3月	
	販売した福祉用具	用具 : 浴室用車いす 時期 : 2009年11月	

連携のプロセス

車いす(電動車いす以外)レンタル開始 (2009年7月)

ニーズ:
トイレ、浴室への動線の幅が狭く段差がある。
⇒安全に移動するための移動の容易性を確保し、
介護負担を軽減。

座位は安定しているが、トイレ、浴室には移乗のスペースが無いため、
トイレ、浴室に行けない。

提案: 浴室用車いすを導入し、トイレでの排泄、浴室でのシャワー浴を実現する。
・トイレ入口の段差解消、扉の変更。
・浴室入口位置変更、段差解消、廊下通路幅拡張。

ADLの低下に伴い、家族と相談
途中、ケアマネジャーが交替。
⇒引継ぎがしっかりしていた為問題なし

サービス事業所、新たな介護者(娘様)が入る度に援助計画の説明と理解を求める。家族間(夫と娘)の理解、解釈が違う。

⇒市の助成制度を併用して工事

助成工事を併用したため計画
⇒施工に時間がかかり病気の進行のほうが早かった。

トイレ、浴室の扉の変更 段差解消(2009年3月)

浴室用車いす(2009年11月)

住宅改修をする時点で浴室用車いすの導入を前提としていた。
⇒退院後のADLにあわせ導入。

【連携の効果】

◆利用者・家族:

家族、ケアマネジャーからの聞き取りにより、ニーズを発見し、住宅改修と連携して対応することで介護負担を軽減できた。

◆事業所:

利用者は進行性の病気を患っているため、想定しうる状態に合わせて前もって提案を行った。
住宅改修を行う時点で浴室用車いすの導入を前提とし、退院後のADLにあわせて導入した。

ポイント

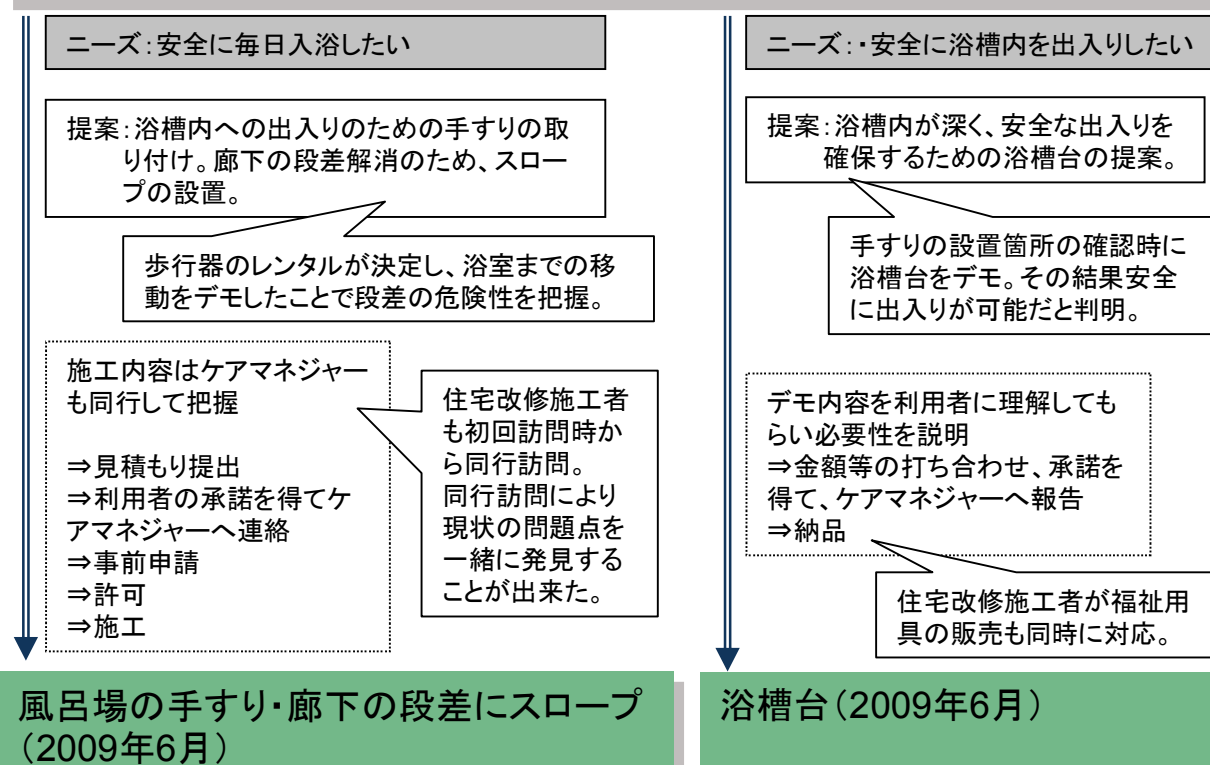
業態連携 事例

ケース7: Gさんの場合

Gさんのプロフィール (利用)開始時期)		89歳 女性 認知症の状態 : なし	現疾患 : なし 主な介護者 : 配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具 : 歩行器 利用開始時期 : 2009年6月	
	住宅改修	内容 : 風呂場の手すり・廊下の段差にスロープ 時期 : 2009年6月	
	販売した福祉用具	用具 : 浴槽台 時期 : 2009年6月	

連携のプロセス

歩行器レンタル開始 (2009年6月)



【連携の効果】

◆利用者・家族:

状態の変化や行動の変化に素早く対応することで、危険を回避できた。

◆事業所:

住宅改修、福祉用具販売を同時に同じ人間が行うことで、ケアマネジャーや利用者との打ち合わせがしやすかった。住宅改修施工者、ケアマネジャーが同行訪問するなど、連携を図ることで、迅速な対応ができ、時間が短縮できた。その結果、効率化に繋がった。

ポイント

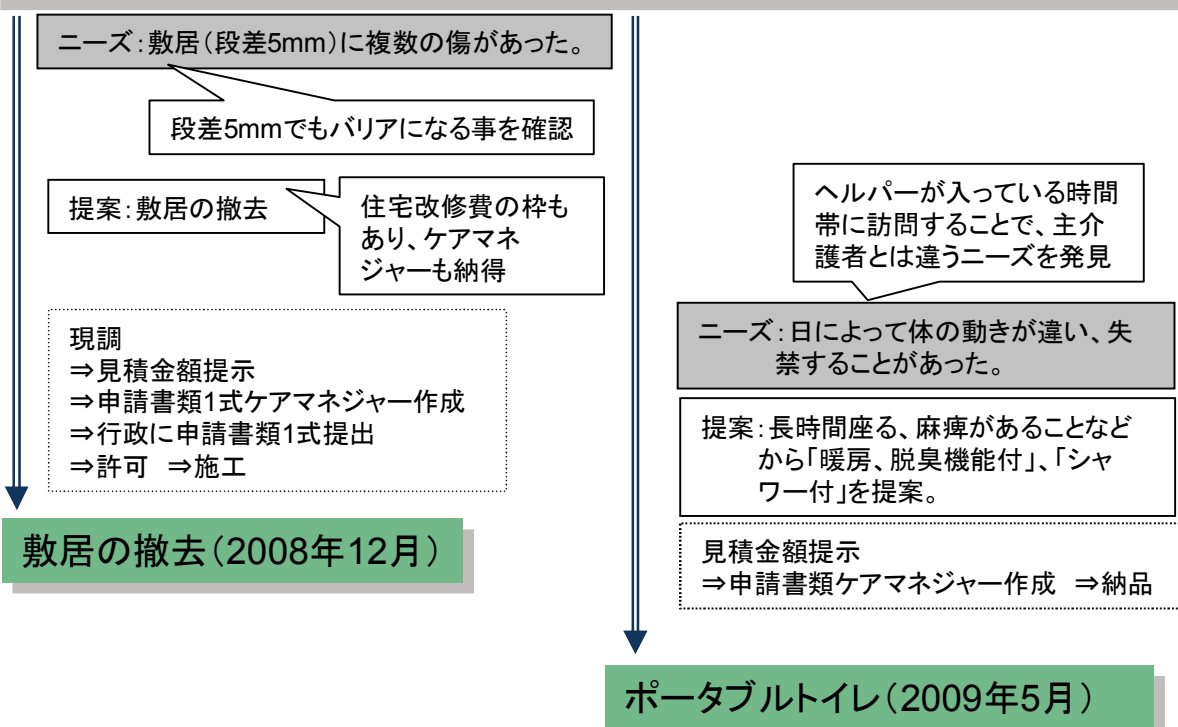
業態連携 事例

ケース8:Hさんの場合

Hさんのプロフィール (利用)開始時期)		61歳 男性 認知症の状態 : なし	現疾患 : 脳梗塞後遺症に伴う右半身麻痺 主な介護者 : 配偶者
サービス利用の状況	借りている用具	用具 : 手すり 利用開始時期 : 2008年11月	
	住宅改修	内容 : 敷居の撤去 時期 : 2008年12月	
	販売した福祉用具	用具 : ポータブルトイレ 時期 : 2009年5月	

連携のプロセス

手すりレンタル開始 (2008年11月)



【連携の効果】

◆利用者・家族:

福祉用具を導入することで利用者の意欲が向上するとともに、状態の改善が見られ、介護負担が軽減した。

◆事業所:

福祉用具販売と住宅改修を組み合わせることで、生活環境全般の改善を図ることができた。利用者に係わる全ての業者が状況を共有し連携し、他業者からの意見、相談を聞き、解決することが質の向上に繋がった。利用者の定期報告とケアマネジャー定期面談を行うことで、相談事がスムーズになった。

ポイント